

# 数学 広島大学 (前期) 数学 (文系)

## <全体分析>

試験時間	120 分	解答問題数	4 題
------	-------	-------	-----

解答形式  
記述形式

### 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

### 出題の特徴や昨年との変更点

異なる分野の融合問題がなかった。

どの分野も4題から5題の設問からなり、後の問題への誘導となる形が多かった。

### その他トピックス

数学(理系)型との共通問題が1題あった。

## <大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	確率	A	さいころを2個投げるときの確率 条件付き確率、期待値	標準
[2]	空間ベクトル	C	等面四面体の体積	標準
[3]	数列	B	漸化式の置き換え 数列の最小値	やや難
[4]	微分法 積分法	II	1/6 公式の証明 放物線と直線で囲まれた部分の面積	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

標準的な考え方の問題が中心であるため、各分野の基本事項を身につけ、典型的な問題については誘導がなくても解けるようにしておこう。

融合問題も多く出題されているため、単元を超えた問題演習にも取り組もう。

また、計算が煩雑な問題もあるため、普段から最後まで計算しつくすようにしておこう。